

2、相模国分寺跡について

相模国分寺跡は、神奈川県ほぼ中央に位置し、西に大山を望む相模川が形成した標高32m前後の河岸段丘上に立地している。江戸時代の書物に記載されるほど古くから知られる遺跡だった。しかし、明治維新後の廃仏毀釈の動きと関連して礎石が他に転用されるなど荒廃していくようになる。その状況に心を痛めた中山毎吉さん（尋常高等海老名小学校校長）が保存活動を進めた結果、大正10年（1910）年3月3日に**国指定史跡**となった。



3、近年の史跡保存問題

史跡が見つかったと整備して保存をする地域は多い。しかし、その史跡の保存状態を保つことに注力されがちで活用されず、整備されても実際には空き地化してしまう。相模国分寺跡の敷地周辺も、最近まで**高層マンションの建設計画**がされていた。（現在、その計画は近隣住民の反対運動のおかげでなくなった。）



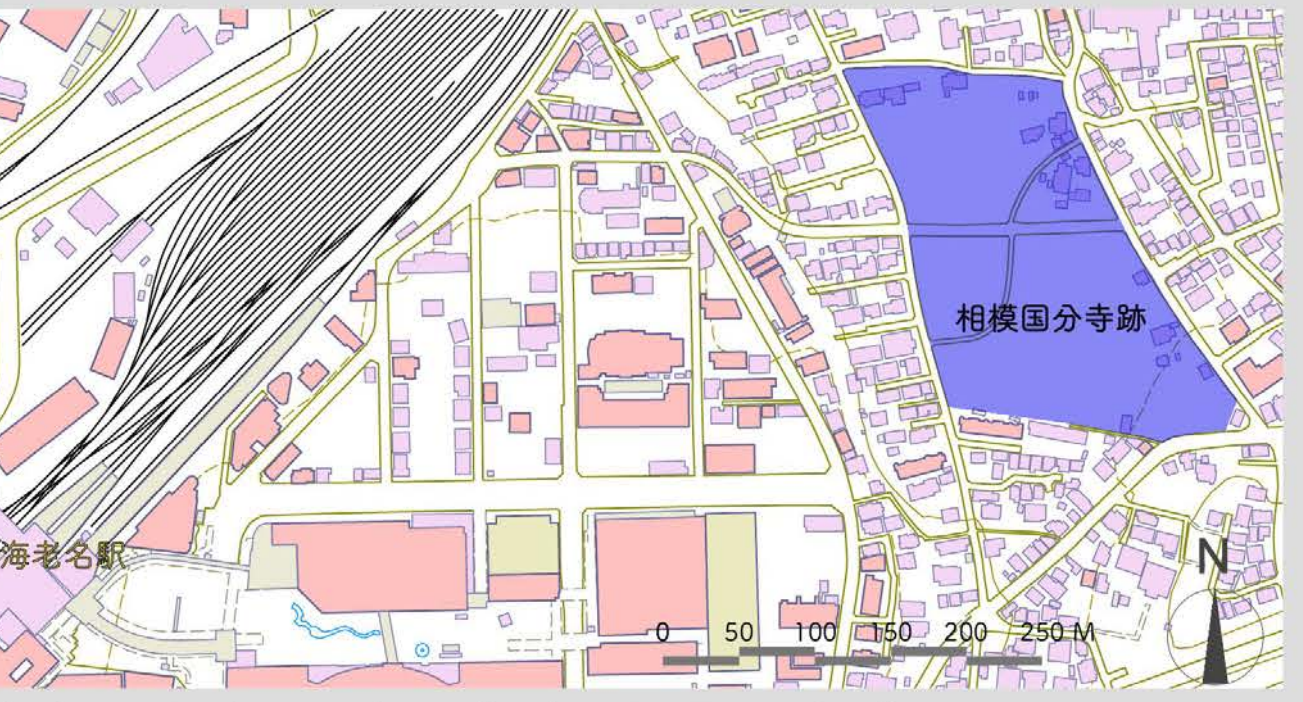
4、歴史的価値のある史跡

相模国分寺跡は、中門から見て左側に七重塔、右側に金堂、七重塔と金堂の背後に講堂があり、七重塔と金堂を回廊や築地塀で囲む**法隆寺に似た伽藍配置**が採用されている。全国的に国分寺でこの伽藍配置が採用されている例は少なく、相模国と下総国の二国しかない。区画溝で囲まれた寺院地（寺院を運営する建物を含んだ範囲）は東西約240m、南北300m以上と国分寺跡の中でも有数の規模である。



5、住宅街に潜む史跡

神奈川県海老名市国分南一丁目19
相模国分寺跡 対象面積：34,841.73㎡

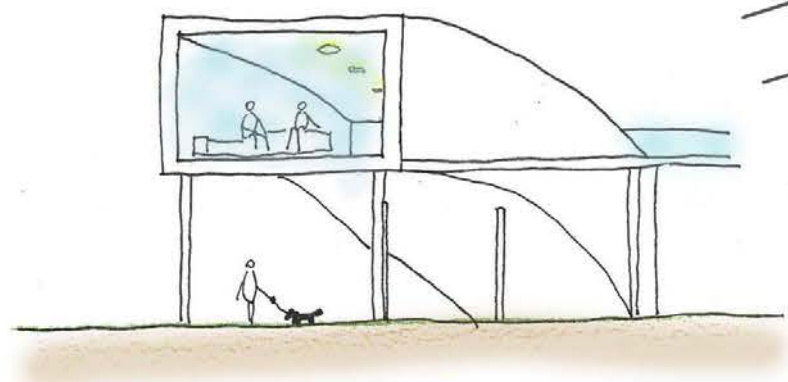


海老名駅前は近年、急速に発展を遂げている。生活がしやすいまちへと変化しているが、都市開発を進めた結果、歴史や地元のお店が失われつつある。文化的側面に焦点を当て、多くの人が海老名の歴史や産業などについて触れられる施設を提案する。

デッキレベル GL:+2700

回廊の続きを想像してみる

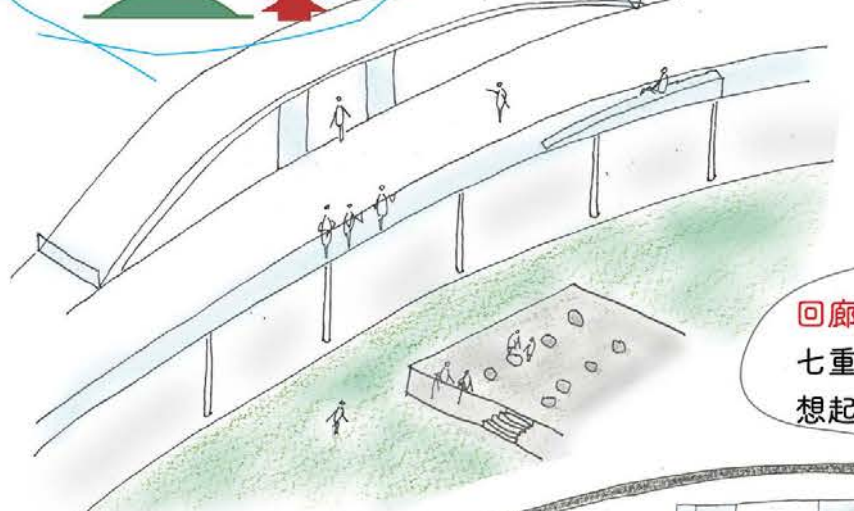
史跡散策にちょっと疲れたら、この場所で**休憩**。回廊が窓の先にも続いているというイメージを持たせられるような空間にした。



休 休憩ルーム▲
空間を一部上げることで、人の流れや土地の高さなどを感じやすくなるようにしている。

七重塔ってここだったんだ！

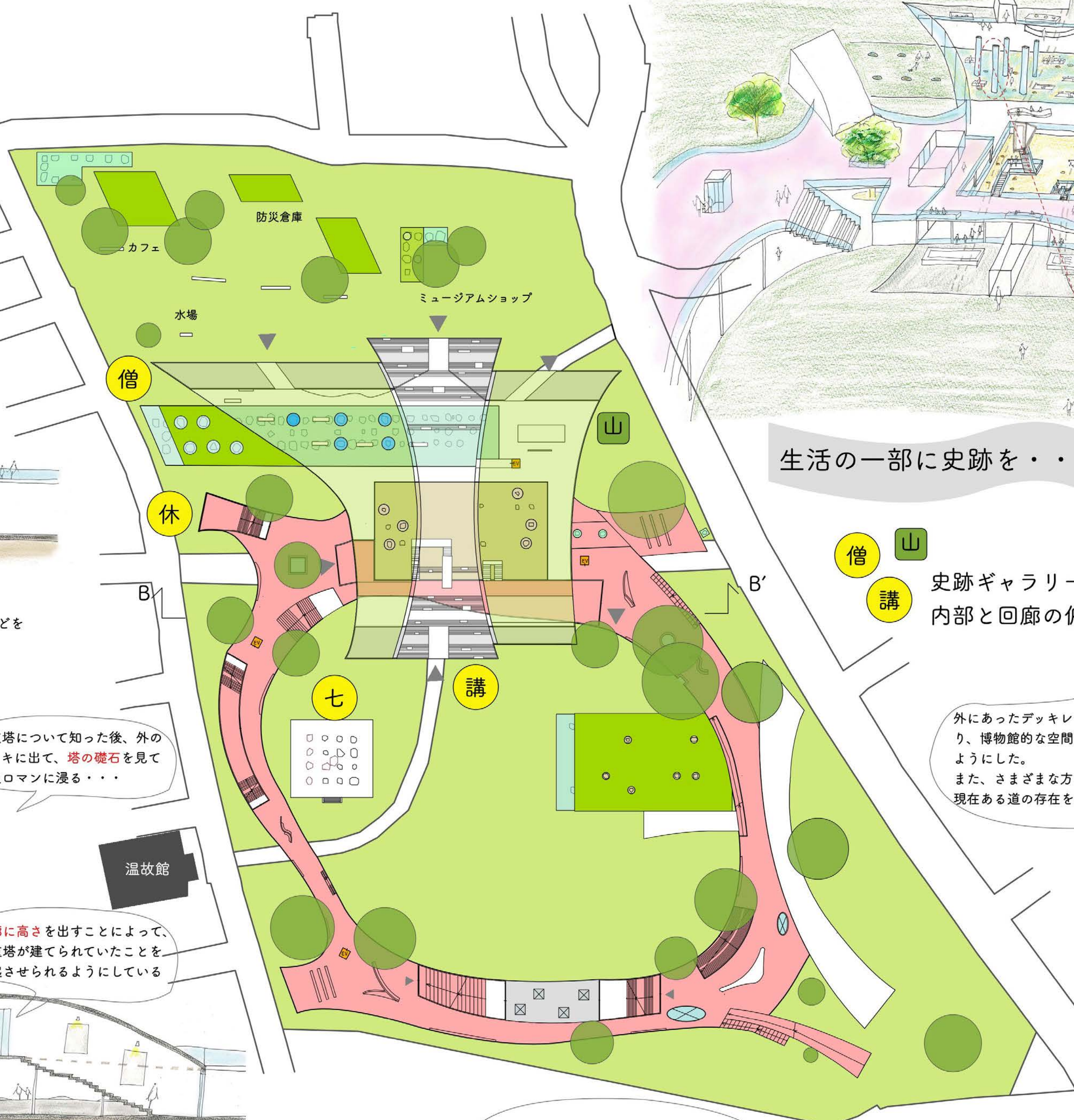
大山の稜線&七重塔の高さをイメージした空間



回廊に高さを出すことによって、七重塔が建てられていたことを想起させられるようにしている

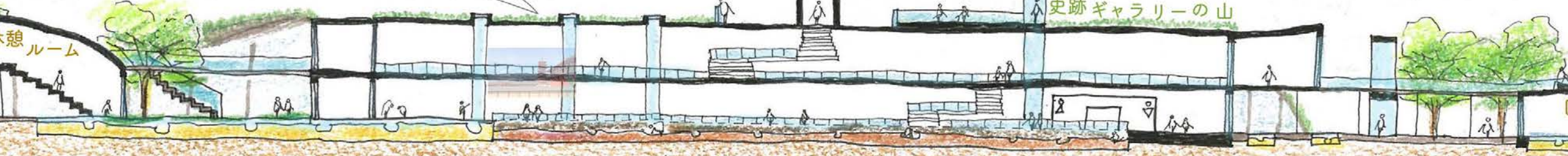
七 七重塔ギャラリー▲

休 史跡散歩、なかなか楽しいな・・・



山 史跡ギャラリーの山から屋上に出られる階段がある。屋上（山の上）から相模国分寺跡の伽藍配置を眺められる。奈良時代の風景を想像してみよう！

僧 僧房跡の礎石跡の位置に**透明な柱**が天井まで伸びており、天窗になっている。建物が立っていた様子を再現した空間デザイン。壁面には奈良時代の相模国分寺再現映像を映す。



生活の一部に史跡を・・・

僧 **山** **講** 史跡ギャラリーの山内部と回廊の俯瞰パース▲

剥き出しの史跡を見る

ガラス越しに史跡を見る & 建物があったことを想像

外にあったデッキレベルの回廊が史跡ギャラリーの山の内部に繋がっており、博物館的な空間だけでなく、**近隣住民の生活道路**としても利用できるようにした。また、さまざまな方向から史跡ギャラリー内に入れるようにすることで、現在ある道の存在を表している。

階段と芝の間にFIX窓があり、史跡ギャラリーの山の内部に日光を入れ、空間を明るくする。

階段のところに植栽を入れ、圧迫感のない階段にしようとした。

外に向けて開口部を設けることで、通行人が足を止め、興味を持つ。

山 史跡ギャラリーの山外部階段▲

縮尺 1:800

回 外に向けて開口部を設けることで、通行人が足を止め、興味を持つ。

